

受賞記念講演：「ミャンマー民主化の夜明け」

大賞 / テイン・セイン（前ミャンマー連邦共和国大統領）

私はミャンマーの奥地にある小さな村の出身で、そこは教育環境が乏しく、高校まで3、4か所を転々としながら勉強していました。高校卒業後も大学進学は難しかったため、防衛大学を選びました。卒業後は、陸軍部隊で少佐から大将に昇進し、任務に一生懸命取り組みました。行く先々で出会った貧しい人々のことを、自分のことのように思う気持ちが今でも心に残っています。

大統領就任以降の私の目標はとてもシンプルで、それは、わが国を穏やかで平和な民主国家にするということです。若い人々のために良い将来を構築し、アジアの豊かさを共有できる発展した国にしたいと思いました。私は任期中、「軍政から民政への移管」、「武装勢力との和解」、「中央統制型の遅れた経済体制から自由な経済体制への移行」の三つの改革を同時に行いました。

民主的な政府でこそ経済発展の果実を多くの国民のために活用でき、長期的かつ持続可能な平和を構築することができます。わが国には100以上の言語があり、多くの民族が住んでいるので、長期に持続する平和を実現させるために全力で取り組んできました。暴力には法を以て対処し、困っている人々には人道的支援を行わなければなりません。次のステップは、交渉により平和的な解決法を協議して見つけることです。私は、これを頑張って実現してきました。

政治と経済はそれぞれ関連するチェーンのようなもので、国家の安定なくして経済発展はできません。ですから、国家安定のために一部の対抗勢力が国会に参加できるようにし、国の建設に全国民が参加できるよう多くの囚人に恩赦を与え、国民が自由に発言できるようメディアに対して表現の自由を与えました。また、ソーシャルメディアの利用を広げるため、携帯電話の利用が可能な地域を農村にまで広げました。

2011年、わが国の貧困率は26～30%で、国民の70%は農村に住んでいました。そこで、国連目標に沿った形で、貧困削減地方開発計画を策定・導入しました。

また、ミャンマーの豊富な資源を代々に残すために計画的に使う必

要があり、任期中にわが国がEITI（採掘産業透明性イニシアティブ）の加盟国となるよう努力しました。一方、国家経済の立て直しに重要な要素である資本・技術・人的資源が欠如していたので、投資環境の整備、工業団地・経済特区の導入等、外国からの直接投資を誘致しました。

さらに、国民の生活向上のために、電力、飲料水、農業・畜産、雇用、観光、金融、貿易・投資の7つの分野において包括的社会開発を行いました。持続可能な開発の推進のため、国家総合開発20か年計画やミャンマー総合開発ビジョン等を、日本を含めた国際機関の支援で策定しました。これらの策定の際に、正確な統計を活用できるよう、30年以上実施してこなかった国勢調査を2014年に行いました。この調査は我々の政権のみならず、後の政権が経済計画を策定するときにも役立つものと考えています。

また、経済発展の障害であった経済制裁緩和のため、私自身がアメリカとEU各国に出向いて首脳レベル・議長レベルの方々とは会談を重ね、ミャンマーが民主主義を正確に導入して実践していることを理解し受け入れてもらえるよう、説明を果たしました。そして国際社会の信頼を築くことができ、短期間で国際関係が正常化しました。

ミャンマーは、これまでの債務60億米ドルを日本の協力で解消することができました。また、つなぎ融資の取得に掛け合ってくれたのも日本でした。このような日本政府の協力に大変感謝しています。その結果、IMFやADB、ODAなどからの融資と技術協力を数多く受けることができ、また、国内外の投資が増大し、観光も発展しました。経済成長率は年平均約7%になり、IMFの報告によると、1人当たりの所得もかなり増大しているということです。

私は5年間の任期中に、国内の和平構築、安定的な国家建設、全員参加可能な政治、社会経済の向上、若年層のより良い将来の基盤づくりなどを実現しました。私の働きが自国のみならず、周辺地域にも良い影響を与えた証として本賞をいただいたものだとして理解しており、大変嬉しく、感謝申し上げます。

